

釧路湿原東部 3 湖沼の自然環境調査について

1 . 自然環境保全上の問題点・課題

釧路湿原の東部に位置するシラルトロ湖、塘路湖、達古武沼は、流入河川や湧水などにより水が供給され、各種水生生物が生育し、湖沼の周辺にはヨシ等の低層湿原など多様な自然環境が残されている。

しかしながら当該 3 湖沼においては、近年、河川からの栄養塩類、土砂の流入等に伴う富栄養化や湖底の浅化、釧路川の逆流等により、複雑な生態系のメカニズムが変化しつつある。その結果、当該湖沼に生育する水生生物種の減少や生育環境の悪化など、自然環境や生育する生物の多様性に変化が生じつつあることが指摘されている。

水生植物は窒素・リンなどの栄養塩類を除去する働きがあり、水質浄化に果たす役割も大きい。シラルトロ湖、塘路湖及び達古武沼の 3 湖沼では、水生植物の確認種数はかなり減少している。特に 1991 年から 2000 年の減少が著しく、シラルトロ湖では 22 種から 14 種、塘路湖では 12 種から 8 種、達古武沼では 20 種から 14 種に減少している。

2 . 取組の方向性

平成 15 年度においては、当該 3 湖沼における既存の知見を整理すると同時に、特に達古武沼を対象として、水生植物種の減少等の実態把握や、水生生物と水質変化の因果関係の解明などを目的とした調査を以下のとおり実施する。

(1) 3 湖沼の既存知見整理

関係機関等で行われている、3 湖沼の水質や生物相に関する既存調査のレビューを行う。

(2) 達古武沼の調査計画

当該 3 湖沼のうち、今後、湖沼環境の変化が最も顕著に起こることが懸念され、また集水域を対象に自然林再生のモデルづくりを検討している達古武地域の達古武沼において、流入河川等の水文環境や当該湖沼環境で生育する野生生物について、現況、悪化状況及びその要因を調査、解析し、当該湖沼環境の保全方策の基本的な方針について検討を行う。

調査予定期間は、平成 15 年度及び平成 16 年度を予定。

ア . 達古武沼の水収支及び栄養塩収支調査

水質、底泥、流入出収支

(河川負荷量、降雨時流入負荷、釧路川逆流、降雨水質)

イ . 達古武沼の生態系構造把握調査

水生植物、動植物プランクトン、ベントス、魚類・昆虫等水生動物を含む沼の生態系調査

ウ . 保全方策の基本的方針の検討